

北海道遺産は、次世代に引き継ぐ北海道ならではの宝物として、豊かな自然、人々の歴史や文化、生活・産業など様々な有形、無形の価値の中から、道民参加のもと選定され、平成13年に第1回選定分25件、平成16年に第2回選定分27件、平成30年に第3回選定分15件そして、令和4年10月13日に第4回選定分6件と名称変更1件が決定・公表され、総計74件となりました。

## 静内二十間道路の桜並木(新ひだか町)

北海道開拓使長官黒田清隆が新冠、静内、沙流にまたがる地域に開設した新冠御料牧場内に、明治36年に開設されたのが二十間道路です。新ひだか町静内市街地から北東へ約7kmに位置し、幅が二十間(約36m)あることからその名がつけられました。大正5年から約3年をかけて道路の両脇にエゾヤマザクラが移植され、現在にいたっています。

大正天皇、昭和天皇がいずれも皇太子時代に訪れた迎賓館である龍雲閣まで、約7kmにわたる直線道路が伸び、その両側に、2千本を超える桜が咲き誇る様子は壮観です。例年4月下旬～5月上旬に行われている「しずない桜まつり」には全国から10万人を超える観光客が訪れます。

夏には深緑の葉がつき、周辺の広大な牧場と調和した景観は桜の季節以外にも訪れる人々を楽しませています。



静内二十間道路

## 北海道の馬文化(ばん馬、日高のサラブレッドなど)

北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦労をともにしてきました。農耕馬の力を試した「祭典ばんば」は、仏原産のペルシュロン種など1トンに及ぶ馬による「ばんえい競馬」に発展しています。

力を求めたばん馬に対して、サラブレッドは速さを求めて改良が進められています。全国の軽種馬生産の約8割を占める日高地方は、北海道らしい牧場風景を作りだし、世界に誇る浦河町の「JRA日高育成牧場」では、生産・育成調教技術の研究・普及、施設開放により世界に通用する強い馬づくりに貢献しています。

北海道和種馬(どさんこ)は、地域における物質の運搬などで活躍し、農林漁業の発展を支えてきました。

また、こうした層の厚い馬産業の存在により、鞍(サドル)やそりの製造においても、高い技術が蓄積されてきました。

最近では、大自然の中でのホーストレッキングやホースセラピーなど、さまざまな分野においても馬の活用が盛んになっています。



JRA日高育成牧場

## 蝦夷三官寺(有珠善光寺、様似等澗院、厚岸国泰寺)

蝦夷三官寺とは、江戸幕府が1804年に現在の伊達市、様似町、厚岸町に建立した3つの寺院の総称です。各寺は蝦夷地で死亡した和人の葬儀とアイヌ民族への仏教布教を目的として建てられました。背景には対ロシア政策として幕府による蝦夷地支配を示す狙いがありました。しかし、アイヌの人たちと和人の文化接触は比較的緩やかであったため、アイヌ文化の儀礼・祭祀の独自性は損なわれず、かつ各寺に対する信仰と崇敬の念が保たれたまま今日に至っています。

三官寺には明治期以降とは異なるアイヌと和人の関係史が見て取れます。



様似等澗院

北海道遺産

## ひだかのNo.1

日高の世界一	二十間道路桜並木(新ひだか町).....直線延長約7km
日高の世界最大規模	JRA日高育成牧場(浦河町)屋内直線走路.....全長1,000m JRA日高育成牧場(浦河町)屋内坂路.....全長1,000m
日高の東洋一	北海道市場(新ひだか町)施設規模・せり上場頭数 JRA日高育成牧場総合施設軽種馬育成調教場(浦河町)施設規模
日高の日本一	軽種馬生産頭数.....約6,147頭(R4)/全国の約8割 すずらん群生地(平取町)面積.....約15ha ゼニガタアザラシ(えりも町・襟裳岬).....生息数約1,000頭 日高山脈襟裳国定公園.....103,447ha レ・コード館(新冠町)レコード収蔵枚数.....100万枚
日高の全道一	トマト生産(平取町ほか).....約10,812t/約36.9億円(R5) ピーマン生産(新冠町ほか).....約2,334t/約12.7億円(R5) 夏いちごの生産量(浦河町・様似町).....約194t/約3.9億円(R5) 二風谷アイヌ文化博物館収蔵点数(平取町).....20,000点 えりも黄金トンネル.....全長4,941m シベチャリの橋(新ひだか町)歩道橋.....全長347.2m 風の館(えりも町・襟裳岬)風体験.....風速25m/s マツカワ漁獲高.....72t/R4全道の約44.4% 7,163万円/R4全道の約40.7%